

# 会長挨拶

## 継続する動物飼育とその評価

宮下英雄



みなさまこんにちは。今回も、全国各地から多くの方々のご参会をいただき、この由緒ある東京大学弥生講堂にて研究大会を開催できますことに、関係各位のご尽力とご支援、ご協力に感謝を申し上げます。

また、日本獣医師会、日本小動物獣医師会をはじめ文部科学省、東京都教育委員会、文京区教育委員会などの関係機関、並びに多くの研究会、多くの連合諸団体のご後援をいただき開催できますことに感謝の至りでございます。高いところからではございますが、御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、本研究会は、発足以来、日本の将来を担う子供たちの心身が、「より豊かに、より健やかに、より逞しく」成長することを願い、動物が持っている秘めた力、すなわち子供に与える感化力や影響力を、教育活動に積極的に取り入れようとして、動物飼育の実感体験を通して、情愛豊かな子供の育ちの変容の成果とその課題を、実践事例を通して11回にわたる研究発表会を続けて参りました。今回は、10回の上に、さらにこれからの一歩を加えることになることからして、一つの節目に向かって研究会の内容と方法を変えてきました。

それは、この節目とちょうどマッチするかのように新たに改訂されせました新学習指導要領の内容に合わせてとともに今までの研究発表にて寄せられて参りました課題の解決を探るために、獣医師の参画のもとに分科会方式を取り入れた研究会を構成しました。ご承知のように、生活科におきま

しては、動物を飼ったり、植物を育てたりして、生命を持っていることや、成長していることに気付き、生命への親しみを大切にするようにするために、長期にわたる飼育・栽培において、どちらか一方を行うのではなく、2年間の見通しを持って、飼育と栽培の両方を確実に方向に改訂されました。生き物への親しみと生命の尊さを実感させることに大きな意義と価値を具体的な活動を通して見いだすことができるようになりました。この意義や価値は、理科、道徳、特別活動の教科や領域の学習においても同様です。

しかし、学校・園においては動物飼育に関する専門家はおりません。飼育に伴う正しい認識と方法を身につけることが、緊急な課題と考えます。そのために、「誰にでもできる、誰にでも分かる動物飼育」を目指して、身近な実践事例を通して、学び合える、話し合える研究会を構成しました。初任者もベテランの先生も、獣医師の方々と一緒に、ときには、動物に触れ合いながら、動物飼育と教育を語り合えることができました。大変、和やかな雰囲気のもと、ほん研究会の本質に向けた論議が行われました。

今回は、「動物飼育の実践と評価」を大テーマに掲げ、今まで、口頭発表や、パネルにてご発表いただいて参りました実践事例等を中心にしながら、「動物愛護と生命尊重」の視点から実践事例に評価のメスを入れ、さらに、本研究会が求めている動物介在教育の本質に、指導する側と子どもの変容をとらえる側から分析し、その確信に迫っていきたいと考えています。

ご発表くださいます発表者の方々、そして、講演（今回は、私宮下が行いますが）、研究会のまとめをしてくださいます文部科学省教科調査官 村山哲哉先生によりしくお願いを申し上げます。挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(聖徳大学児童学部教授)

